



# 余養だより

令和7年2月28日  
第4号(196通巻号)  
北海道余市養護学校発行

## これからも地域共に

校長 宮 岸 尚 平

令和6年度も残すところあと1か月となりました。この冬は雪が少なくよかったと思っていたら、1月末から2月上旬にかけての大雪で、あっという間にいつもの冬以上の積雪になりました。とはいえ例年に比べると気温が高く暖かな冬だったので、少し早く春の足音が近付いて来ているように感じます。

さて、14年ぶりの余市養護学校そして知的障害特別支援学校での勤務で戸惑うことが多かった1年でしたが、振り返るとあっという間に終わってしまう感じです。4月からの子どもたちの様子を見てきましたが、一年間でとても成長したなと感じます。保護者の皆様も、お子さんの成長を感じられているのではないかと思います。今後も、教職員一丸となって子どもたちが成長していくことができるような教育活動を推進して行きたいと考えておりますので、引き続き御協力をお願いします。

また、余市養護学校に戻ってきて、一番変わったと感じたことは、地域と連携した取組が当時に比べると色々な取組が活発に行われていることでした。当時はニッカウキスキーや円山公園への校外学習、水産試験場裏の海岸への遠足など地域に出かけて活動や近隣の小・中学校や高校との交流及び共同学習が行われていたぐらいだったのではないかと記憶しております。

一方で、この1年間の教育活動を見てきましたが、交流及び共同学習の充実はもちろん、作業学習における柿崎商店の割りばしの袋詰めやリキュールファクトリーの段ボールの組み立て、余市観光協会と連携した「蜜ろうラップ」の作成、そして、余市町のみならず京極町からの依頼のカッティングボードの作成、「子どもたちと地域で学び合う学習」として、保護者の方も一緒に参加して行われる地域資源を活用した取組や地域の方と一緒に取り組む教育活動の充実など、各学部のみならず寄宿舎においても様々な活動が行われていることに大変驚きました。今後も、子どもたちが地域と共に学び、共に成長して行くことができるような教育活動の充実を図って行きたいと思えます。

小・中学部、高等部の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。4月からは新しいステージでの生活になります。これまで学んだことを活かし、新たなステージでこれまで以上に活躍することを期待しています。また、在校生の皆さんも4月からの学校生活が充実したものになるよう日々の学習に取り組んでください。

最後になりますが、保護者の皆様はじめ地域の皆様、関係機関の皆様、今後とも本校の教育活動への御理解と御協力をお願いします。一年間ありがとうございました。

～余市養護学校「いじめ認知」状況のお知らせ～

令和6年10月～令和7年2月 本校におけるいじめの認知はありません。生徒指導主事



←余市養護学校ホームページのQRになります。

い。その他、余市養護学校の活動や子どもたちの学習の様子を更新しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

## 小学部

～小学部の1年を振り返って～



小学部の35名の児童は、この一年、様々な事柄に興味・関心をもち、楽しく、主体的に学習に取り組んできました。運動会では、多くの応援を受け、4月に入学した1年生も元気いっぱい練習の成果を発表しました。ルスツリゾートに行った6年生の見学旅行、余市町と小樽市で行った5年生の宿泊研修では、日常の学習で身に付けた力を発揮し、更に経験を広げることができました。「子どもたちと地域で学び合う学習」では、新たな地域資源を活用し、地域の皆様との関わりを通して学習を行うことができました。児童一人一人が、達成感を味わいながら経験を積み重ねることで、次のステップへの自信につなげることができた一年でした。

小学部主事 宮本 明美

～中学部の1年を振り返って～

## 中学部

今年度、新たに7名の新中一年生を迎え、17名の生徒で学習活動に取り組みました。体育大会では自己記録の更新、学習発表会では、ダンスや器楽に挑戦し、全力で取り組むことで日々の学習の成果を発揮することができました。社会見学・子どもたちと地域で学び合う学習では、保護者と一緒に余市水産博物館やフゴッペ洞窟の見学をとおして、余市町の歴史について理解を深めることができました。生徒自身が自分の成長を実感し自信につながる一年になりました。

中学部主事 阿部 育子



## 高等部

～高等部の1年を振り返って～



今年度も、泊学習や体育記録会、高等部祭などの行事、同じ地域の学校である紅志高校との交流、現場実習などに一人一人が意欲的に参加し、日頃の学習の成果を発揮することができました。学習集団は授業によって変わりますが、高校生らしく生徒同士で考えたり協力したりしながら取り組むことができました。

高等部主事 鎌田 紫容子

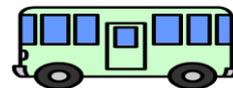
## 訪問部

～訪問教育学級の1年を振り返って～

訪問教育学級の令和6年度を振り返ると、在宅訪問では在校児童や居住地校交流を通して、今年度の重点目標にある生活経験や人間関係を広げることができました。施設訪問（みどりの里）では、新型コロナウイルス感染症による規制が緩和され、本来の学習環境に戻りつつあります。このことによって、児童生徒がお互いの顔を合わせて行事に参加したり、学習を行ったりすることができるようになったことは、施設訪問にとって大きな前進を遂げることができた一年でした。今年一年、訪問教育学級へ御支援・御協力いただいた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。訪問教育学級チーフ 松島 希



# ☆☆☆きらり♪余養サポーターズの紹介☆☆



今回は、スクールバスの添乗員さんに「いつも、どんな気持ちで働いているかを聞いてみました。」

登下校とも、子どもたちの安全を一番に考えて、仕事をしています。車内でけがをしたり、子ども同士が争ったりしないで、気持ち良く車内で過ごせるように、日々、気をつけています。

添乗員 女性



児童生徒の皆さんには、安心して気持ち良くバスの中で過ごしてもらいたいと日々思っています。正確で安全に乗降ができるように心掛けています。

介護員 男性

子どもたちが、安全に学校へ通うために、バスの乗車走行中の安全確認を第一に考えています。また、毎日、楽しく、コミュニケーションをしたいと思います、接しています。

添乗員 男性



子どもたちが、安全に学校へ通うために、バスの状況・走行中の安全確認を第一に考えています。又、声かけをしながら、楽しくコミュニケーションできればと、毎日、接しています。

添乗員 女性

子どもたちが乗ってくるとワクワクします。元気だったり、怒っていたり、眠そうだったり…。みんなとおしゃべりをして元気をもらっています。一緒に学校に行く様な気持ちになります。

添乗員 女性



登下校とも、子どもたちの安全を一番に考えて、仕事をしています。車内でけがをしたり、子ども同士が争ったりしないで、気持ち良く車内で過ごせるように、日々、気をつけています。

添乗員 女性

みんなの元気な顔を見ながら、色々な話を聞かせてもらい、楽しく過ごしています。これからも安全に楽しくバスに乗ってもらえるように、私も頑張りたいと思います。

添乗員 女性



いつもと様子が同じか、違うようだな、とか、バスの中でけがをしないか気にしています。

添乗員 男性

これからもどうぞよろしくお願いします！



## 「北海道地学協働アワード2024」優良賞受賞

本校のこれまでの地域と連携した取り組みが評価され、道教委生涯学習推進局社会教育課で実施している「北海道地学協働アワード2024」において優良賞を受賞しました。保護者の皆様はじめ地域の皆様に支えられたことにより、このような賞を受賞できたことに感謝申し上げます。

「北海道地学協働アワード2024」につきましては、以下のURLもしくはQRコードを読み取っていただくとスライド資料及び発表動画を見ることができますのでご覧ください。

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ssg/chigakuaward2024.html>

